シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	情報処理		
必修選択	選択	(学則表記)	情報処理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	①情報基礎演習　保育士・栄養士のためのパソコン操作編 ②教育デジタルトランスフォーメーション　基礎		出版社	①一粒書房 ②一粒書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ビジネス文書の作成、集計表を交えたグラフの作成方法など基本的な操作を学び実践的に適用する力を付ける。		
到達目標	新規からデザイン性のある文書を作成できるようにする。 コンピュータの情報倫理、ネットの脅威とセキュリティ教育を理解し、基礎技術を習熟する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート、ポートフォリオ提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育科:保育士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	副島　聖子	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、成績評価の基準について説明
2	パソコンとインターネット	・情報基礎演習Ｐ２～P30 ・パソコンの基本とメールの利用、ファイルの操作と入力練習
3	第1章 情報を学ぶ意義	・教育デジタルトランスフォーメーション　P1～P8 ・デジタルトランスフォーメーション、Society5.0、ギガスクール構想、６G、社会生活とコンピュータ
4	Office操作　Word編	・情報基礎演習P32～P49 ・Wordの基本操作
5	第2章 コンピュータの基礎	・教育デジタルトランスフォーメーション　P10～P26 ・ハードウェアとソフトウェア、ファイル管理、コンピュータとは
6	Office操作　Word編	・情報基礎演習P50～P67 ・おたよりを作成しよう
7	第３章 インターネットの利用	・教育デジタルトランスフォーメーション　P28～P36 ・インターネットについて

8	Office操作　Word編	・情報基礎演習P68～P89 ・掲示用ポスターを作成しよう
9	第３章 インターネットの利用	・教育デジタルトランスフォーメーション　P37～P48 ・情報検索について
10	Office操作　Word編	・情報基礎演習P90～P105 ・レポートを作成しよう
11	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P50～P60 ・メールの形式、宛先（TO・CC・BCC）、署名の形式、メールアドレスとメールの送受信
12	Office操作　Word編	・情報基礎演習P106～P124 ・知っていると便利な機能
13	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P61～P77 ・文書作成の基本とルール、フォント、資料の収集・参考文献と引用文献
14	Office操作　Excel編	・情報基礎演習P126～P147 ・Excelの基本操作
15	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P78～P80 ・プレゼンテーションとは、準備も含めた全体の流れ
16	Office操作　Excel編	・情報基礎演習P148～P161 ・簡単な関数を使ってみよう
17	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P81～P88 ・プレゼンテーションの企画、PREP法
18	Office操作　Excel編	・情報基礎演習P162～P170 ・割合を計算するテクニック
19	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P89～P101 ・資料作成の基本、発表技法（話し方）・（態度）
20	Office操作　Excel編	・情報基礎演習P171～P184 ・知っていると便利な機能
21	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P102～P108 ・非言語コミュニケーション、リハーサル・質疑応答への対応、次回の為の振り返り
22	Office操作　PowerPoint編	・情報基礎演習P186～P201 ・PowerPointの基本操作
23	第５章 セキュリティを考える	・教育デジタルトランスフォーメーション　P110～11 5 ・情報セキュリティ・ポリシー、ウィルスとは、ウィルス対策
24	Office操作　PowerPoint編	・情報基礎演習P202～P210 ・知っていると便利な機能①
25	第５章 セキュリティを考える	・教育デジタルトランスフォーメーション　P116～120 ・不審メール、ウィルス感染時の対処、インターネットの詐欺、インターネットの詐欺から身を守る
26	Office操作　PowerPoint編	・情報基礎演習P211～P220 ・知っていると便利な機能②
27	第６章 さまざまなインターネットサービス	・教育デジタルトランスフォーメーション　P122～128 ・クラウドサービス、オンラインツール、SNSの利用、クラウドサービスでの情報共有、YouTubeでの動画投稿
28	Office操作　PowerPoint編	・情報基礎演習P221～227 ・スライドでポスター作成
29	第７章 社会人として知るべき法律等	・教育デジタルトランスフォーメーション　P130～145 ・個人情報保護法、著作権、守秘義務、情報漏えい、情報化を進めるために
30	まとめ	振り返りをしてまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ペン字		
必修選択	選択	（学則表記）	ペン字		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	きれいな文字の書き方		出版社	二玄社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	社会におけるペン習字の必要性を知り、社会人として相応しい書写力を身につける。 美しい文字を書くための基本的な知識と技術を身につける。
到達目標	丁寧な文字、すなわち他者にこころよい印象を持たれるような文字を書くことができる。 場面に応じた筆記具、書き方を自ら使い分けすることができる。 落ち着いて、丁寧に文字を書く習慣を身につける。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者
関連資格	保育士・硬筆書写技能検定3級
関連科目	
備考	原則、この授業は対面授業式にて実施する。
担当教員	岩下　紀子　他１名　　実務経験　○
実務内容	通信制高校にて１４年書道教員として勤務する傍ら公民館にて小学生から高校生までの硬筆・毛筆指導を行っている。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	ひらがなの基本	・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
3		・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
4		・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
5		・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
6		・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
7	ひらがなのまとめ	・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
8	カタカナの基本	・カタカナ一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいカタカナを書く。

9	漢字の基本(楷書)	・筆順について
10		・基本点画
11		・基本点画
12	漢字の基本(楷書)	・字形の整え方
13		・字形の整え方
14		・字形の整え方
15		・字形の整え方
16		・字形の整え方　・部首名　・楷書のまとめ
17	漢字とひらがなの調和（楷書）	・四字熟語、漢字仮名交じりの言葉を書く
18	行書の基本・かなの発展	・行書の特徴
19		・行書の特徴 ・行書に調和するひらがなの書き方について
20	漢字とひらがなの調和（行書）	・四字熟語、漢字仮名交じりの言葉を書く
21	俳句・日常書式	・漢字と仮名の調和を考えながら俳句を書く ・数字、アルファベット、横書きの書き方について
22	都道府県、都市名を書く	・都道府県名、都市名を楷書・行書で書く
23	はがき、手紙、のし袋を書く	・名前を楷書、行書で書く　・連綿の書き方
24		・はがき、封筒、手紙文の書式を学習する ・のし袋の書き方を学習する
25	履歴書を書く	・履歴書の書き方を学習する
26		・履歴書の書き方を学習する
27		・履歴書の書き方を学習する
28	作品制作	・1年間で学んだことを生かした作品作り
29		・1年間で学んだことを生かした作品作り
30	まとめ	・作品発表　・これまでの復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	日本国憲法		
必修選択	選択	（学則表記）	日本国憲法		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	教職課程のための憲法入門 第二版		出版社	弘文堂	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	憲法の意義（立憲主義）や原理（基本的人権の尊重、平和主義、国民主権）を理解するとともに、そこで保障されている具体的な権利とその侵害や制約について学校教育を事例に学び、教育現場の憲法問題を知る。また、裁判所の判断基準や条理を知り、法律的なものの見方に触れる。
到達目標	①憲法の意義や特質や基本原理を理解する ②憲法の保障する基本的人権の内容や制約について理解する ③憲法の定める統治の原理について理解する
評価基準	授業態度（提出物の提出状況、積極性、協調性、マナー等）30%、試験70%を基本配分とする総合評価
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許
関連科目	社会的養護
備考	
担当教員	森　敦嗣
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、評価について
2	個人の尊厳と基本的人権	最も重要な目的である個人の尊厳と基本的人権の保障について学ぶ（第１章）
3	子どもの権利と教師の権利	子どもの権利の保障と教師に認められる権利を学ぶ（第２章）
4	憲法における平等	憲法の保障しようとする平等や禁止する差別について知り、教育現場における課題を考えてみよう（第３章）
5	思想・良心の自由、信教の自由	思想・良心の自由および信教の自由について学ぶ（第４章）
6	表現の自由	表現の自由が許される範囲と、限界について理解する（第５章）
7	学問の自由、教師の教育の自由	学問の自由の意味と教授の自由の範囲について学ぶ（第６章）
8	教育を受ける権利	教育を受ける権利の内容と保障のあり方について学ぶ（第７章）
9	自由権と社会権	経済的自由とそれを支える社会権について学ぶ（第８章）

10	人身の自由	刑事事件で保障される権利について学ぶ（第９章）
11	国民主権と参政権	国民主権の原理とそれを実現する参政権（選挙権）について学ぶ（第10章）
12	平和主義	平和主義の内容と自衛隊の派遣に関する解釈について学ぶ（第11章）
13	振り返り	前期試験（期末試験）
14	権力分立	立法、行政、司法による抑制と均衡の原理について学ぶ（第12章）
15	地方自治と主権者教育	地方自治の内容と実際の展開、および自治の主体である「市民」の教育について学ぶ（第13章）
16	憲法とは何か	なぜ教職課程・保育者養成課程において憲法を学ぶのか、憲法の基本原理や特質、その歴史的変遷について学ぶ（第14章）
17	憲法をつかってみよう	憲法の視点から学校を中心とした様々な問題について検討する（プロローグ、エピローグ）
18	振り返り	これまでの確認
19		科目習得試験
20	どうして憲法を学ぶのか	どうして教職課程において憲法を学ぶのかについて、主権者教育と人権尊重の観点から再度、確認する（プロローグ）。
21	個人として尊重するとは	「あなたがあなたらしく生きること」ができる社会とはどのようなものかについて、近代における「個人」の発見という歴史、またそのための人権といった基礎的事項について、再確認する
22	平等論	教育者として、「等しきものは等しく、等しからざるものは等しからざるよう扱う」とはどういうことかについて、学習を深める（第３章）
23	信教の自由	他者の信教の自由を尊重することと、宗教的に中立に振る舞うことの関係について、特に保育の現場における近時の議論を通じて理解を深める（第４章）
24	表現の自由	表現の自由が包含する価値と、その限界について、特に子どもの人格の発展との関連から理解を深める（第５章）
25	学習権	民主主義国家において、国家及び教職員が次世代を教育することについて、子ども中心主義的思考を取り入れながら、前期学習した内容の理解を深める（第６・７章）。
26	生存権	国家が国民の「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するとはどういうことかについて、学習を深める（第８章）
27	労働に関する権利	勤労権、労働基本権、公務員の労働基本権等について、教職者として理解を深める（第２・８章）。
28	人身の自由	適正手続及び裁判員制度について、理解を深める（第９章）
29	民主主義	人権保障と民主制の緊張関係を学び、主権者としていかに振る舞うべきかについての理解を深める（第10章）
30	総まとめ	まとめ、復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	基礎学力演習		
必修選択	選択	（学則表記）	基礎学力演習		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	（改訂）保育学生のための基礎学力演習		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・保育士として必要な基本用語や教養を理解する。 ・社会人としての常識を理解し、身につけることができる。
到達目標	・保育用語と日本語の基本的仕組みを取り入れた適切な文章が書ける。 ・名作や名言と呼ばれる作品に触れることで、豊かな感受性を身につける。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ総合的な観点で評価する。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許
関連科目	
備考	
担当教員	副島　聖子
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Lesson1	保育に関する基本事項/文節/作文・小論文の書き方
2	Lesson 2	5領域/主語と述語/基本的なマナー
3	Lesson 3	子どもの育ち①/修飾語/平仮名と片仮名
4	Lesson 4	子どもの育ち②/指示語/尊敬語①
5	Lesson 5	子どもの育ち③/動詞/尊敬語②
6	Lesson 6	遊びに関わる子どもの発達/品詞/謙譲語
7	Lesson 7	子どもの遊び/オノマトペ/実習オリエンテーションのマナー
8	Lesson 8	遊びの形態/能動態と受動態/実習の髪型、メイク、服装
9	Lesson 9	母子の絆/仮名遣い①/園での言葉遣い

10	Lesson10	保育の形態①/仮名遣い②/暑中見舞いの書き方等
11	Lesson11、12	保育の形態②/接続語①/安全対策/保育の形態③/接続語②/守秘義務
12	Lesson13	保育の計画/接続語③/ネット、SNS等のマナー
13	Lesson14	基本的生活習慣/接続語④/ら抜き言葉
14	Lesson15	子どもの食と栄養①/接続語⑤/掃除の仕方
15	まとめ、復習	まとめ、復習
16	Lesson16	子どもの食と栄養②/接続語⑥/ペンの持ち方
17	Lesson17	子どもの保健/可能表現/お茶の作法
18	Lesson18	子どもの生活/適切な表現①/長音表記
19	Lesson19	幼児教育/適切な表現②/食事のマナー
20	Lesson20	保育の職場/敬語①/時間の計算
21	Lesson21	注意すべき病気/敬語②/よくある表記の間違い
22	Lesson22	子どもの福祉/適切な表現③/海外保育事情
23	Lesson23	安全/比喩/間違いやすい同音・同訓意義語
24	Lesson24	日常における保育の進め方/四字熟語/季節の行事
25	Lesson25	虐待への対応/帰納法/**文化の源となってきた神様・仏様のこと**
26	Lesson26	保育に関する相談/演繹法/心理のお話
27	Lesson27	障害児保育/弁証法/身近な自然
28	Lesson28	幼保小の連携/適切な表現④/お礼状の書き方
29	Lesson29、30	これからの保育と教育/適切な表現⑤/昆虫や小動物の飼育/ことわざ/適切な表現⑥/保育者としての心構え
30	総復習	まとめ、復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	必修	（学則表記）	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	7つの習慣Ｊテキスト、夢のスケッチブック		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する
到達目標	・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する ・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科：保育士
関連科目	未来デザインプログラムⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	三重野　夏妃
実務経験	○
実務内容	フィギュアスケートインストラクターとして勤務(１２年)、子どもから大人までパーソナルトレーナーとして勤務(１４年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どの様な状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊 ～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ
7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
8	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
9	人生のビジョン	１０年後のなりたい自分を考えることにより、入学時に考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える

10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深堀りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」は、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第２領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ
16	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
17	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
18	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
19	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということを学ぶ
20	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ
21	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
22	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続あり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
23	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える
24	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく
25	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
26	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
27	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
28	未来デザインプログラムの振り返り	７つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
29	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
30	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	英語		
必修選択	選択	（学則表記）	英語		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	保育の英会話		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	・保育に必要な英語の基礎を身につける。 ・英語でのコミュニケーションに慣れる。 ・他言語、異文化、習慣について理解を深める。		
到達目標	・保育に関する専門的英単語、会話文を理解し伝えられるようになる。 ・保育に必要な基礎的ヒアリング能力を習得し、会話の中で聞き取れるようになる。 ・外国人の子供や保護者､スタッフに対応するための素養を身につけ、保育現場で活かせるようになる。		
評価基準	授業参加姿勢（積極性、協調性、マナー等）30％、テスト50％、レポート・課題20％　を 基本配分とする総合評価。		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許		
関連科目			
備考	原則、この授業は対面授業式にて実施する。		
担当教員	高松　秀幸	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて園長として勤務(９年)、保育園にて副園長として勤務(３年)、職業訓練校にて校長として勤務(３年)		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育の英会話への第一歩	はじめに Unit 1: First Step to Childcare English
2	みなと保育園にようこそ	Unit 2: Welcome to Minato Nursery School
3	時間と数	Unit 3: Time and Numbers
4	地図と道案内	Unit 4: Directions
5	デイヴィーとクラスメイトの出会い	Unit 5: Davy Meets His classmate Takashi
6	デイヴィーの登園、降園	Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up
7	保育園での仕事	Unit 7: Jobs at Nursery school

8	昼食	Unit 8: Lunchtime
9	排泄に関する表現	Unit 9: Toilet Dialog
10	けんか	Unit 10: Fighting
11	けがと病気	Unit 11: Injuries and Illnesses
12	電話での応対 遠足	Unit 12: Telephone Calls: Unit 13: Field Trip
13	振り返り	前期のまとめ
14	赤ちゃんのケア	Unit 14: Baby Care
15	卒園	Unit 15: Graduation day
16	単語復習	単語のまとめ
17	文法復習	文法のまとめ
18	振り返り	振り返り
19	年間行事：家系図，ヒアリング	年間園行事予定の英単語、祝祭日･日付の英語での表現。家族の英単語、長文のヒアリング
20	折り紙、形を表す英単語	形・色を表す英単語学び、折り紙を英語で行う
21	交通手段、乗り物	交通手段と、乗り物に関する単語
22	クリスマス	クリスマスの文化を学ぶ、グリーティングカードのアイデア
23	クリスマス	クリスマスの歌、料理の英語レシピ、単語
24	英語ミニ知識	異言語・異文化・多文化への理解
25	英会話	電話対応のヒアリング練習とメモの記入法、パートナーインタビュー
26	卒園・祝福・記念日	祝福方法や記念日の表現について学ぶ
27	英語の歌	英語の歌の練習
28	英語の歌	英語の歌の練習、発表
29	振り返り	後期のまとめ
30	総まとめ	各項の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育原理		
必修選択	必修	(学則表記)	保育原理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	①『生活事例からはじめる保育原理』5版 神蔵幸子・宮川萬寿美・中川秋美 ②平成29年告示版　幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 原本		出版社	①青踏社 ②チャイルド本社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育の意義及び目的について理解する。保育に関する法令に基づく制度について学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に則った保育の基本・目標と方法について理解する。また保育の思想と歴史的変遷を学び、保育の現状と課題について考える。		
到達目標	①保育の意義及び目的について理解する。 ②保育に関する法令及び制度を理解する。 ③保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ⑤保育の現状と課題について理解する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	七種　康平	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務(５年)、その他JR九州やApple Store等での子ども向けイベント実績あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育を学ぶということ	「保育」とは
2	保育を学ぶということ	保育者に求められていること
3	子ども理解	子どもを理解するとは
4	子ども観・保育観	外国の保育思想に学ぶ
5	子ども観・保育観	日本の保育思想に学ぶ
6	これまでのまとめ	まとめ

7	保育の理念を支える法規	保育の理念を支える法規
8	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能
9	保育の目標と内容	保育の目標と内容
10	保育の目標と内容 保育の方法	「領域」の考え方
11	保育の目標と内容	幼稚園教育要領における保育内容
12	これまでのまとめ	まとめ
13	保育の計画と評価	保育の計画と評価
14	子どもの育ち・学びの連続性	幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
15	日本の保育の現状と課題	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題
16	海外の保育事情	海外の保育に関する考え方を学び、様々保育実践について学ぶ
17	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について学ぶ
18	これまでのまとめ	各回の内容振り返り、理解度確認
19	これまでのまとめ	総復習
20	保育を学ぶということ	「保育」とは 保育者に求められていること
21	子ども理解 子ども観・保育観	子どもを理解するとは 外国・日本の保育思想に学ぶ
22	保育の理念を支える法規 幼稚園・保育所・認定こども園の 制度と機能	保育の理念を支える法規 幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能
23	保育の目標と内容 保育の方法	保育の目標と内容 「領域」の考え方
24	これまでのまとめ	まとめ
25	保育の計画と評価 子どもの育ち・学びの連続性	保育の計画と評価 幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
26	保育の計画と評価 子どもの育ち・学びの連続性	保育の計画と評価 幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
27	日本の保育の現状と課題 海外の保育事情	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題 海外の保育に関する考え方を学び、様々保育実践について学ぶ
28	子育て支援	子育ての支援内容、支援対策について学ぶ
29	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について学ぶ
30	年間総復習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	教育原理		
必修選択	必修	（学則表記）	教育原理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	『人物で学ぶ教育原理 第13刷』中村弘行著		出版社	三恵社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	教育の理念、思想、歴史などの検討を通して教育学の基礎的な知識について体系的に学ぶとともに、教育にかかわる今日的な課題についても原理的に考察する。教えることや学ぶことはどのような営みなのか、先人の教育観や子ども観を学び、現代的に考えることができるようにすることを目指す。
到達目標	①教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ②教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 ③教育の制度について理解する。 ④教育実践の様々な取り組みについて理解する。 ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	高松　秀幸
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて園長として勤務(９年)、保育園にて副園長として勤務(３年)、職業訓練校にて校長として勤務(３年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	教育の意義	教育の目的や意義、保育と教育の関係・養護と教育（5領域）
2	西洋の教育思想	コメニウス、ロック、ルソーの啓蒙主義の教育思想
3	西洋の教育思想	フレーベル、デューイ、モンテッソーリの経験主義の教育思想
4	日本の教育思想 （江戸～明治）	貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想
5	これまでのまとめ	まとめ
6	日本の教育思想 （江戸～昭和）	森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想
7	外国教育史	近代までの子ども観・教育観、ソクラテスの教育思想

8	外国教育史	大学の設置・教会による教育、近代公教育制度の成立
9	日本教育史	近世以降の地域における教育、学制以降の教育
10	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
11	これまでのまとめ	総復習
12	教育行政・制度	教育委員会・生涯学習・学校選択制について学ぶ
13	これまでのまとめ	まとめ
14	教育の意義	養護と教育（5領域）
15	西洋の教育思想	コメニウス、ロックの啓蒙主義の教育思想
16	西洋の教育思想	ルソー、フレーベルの経験主義の教育思想
17	西洋の教育思想	デューイ、モンテッソーリの経験主義の教育思想
18	これまでのまとめ	まとめ
19	日本の教育思想 （江戸～明治）	貝原益軒、佐藤信淵の思想
20	日本の教育思想 （江戸～明治）	福沢諭吉、森有礼の思想
21	日本の教育思想 （江戸～明治）	倉橋惣三、城戸幡太郎の思想
22	外国教育史	近代までの子ども観・教育観、ソクラテスの教育思想
23	外国教育史	大学の設置・教会による教育、近代公教育制度の成立
24	日本教育史	近世以降の地域における教育
25	日本教育史	学制以降の教育
26	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
27	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
28	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
29	これまでのまとめ	まとめ
30	年間総復習	総復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	社会福祉		
必修選択	選択	(学則表記)	社会福祉		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	『生活事例からはじめる 新版社会福祉　10版』吉田眞理		出版社	青踏社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、社会福祉における子ども家庭福祉の視点を理解する。社会福祉の制度や実施体制を理解するとともに、相談援助について学ぶとともに、利用者の保護に関わる仕組みについて理解を深める。さらに社会福祉の動向と課題を考察する。
到達目標	①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉のおける子ども家庭支援の視点について理解する。 ②社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ③社会福祉における相談援助について理解する。 ④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	井上　由美子
実務経験	○
実務内容	障害児・者施設、療育センターにて保育士として勤務(２７年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	年間予定　諸注意
2	社会福祉の理念と課題①	社会福祉とは何か、憲法第25条生存権、ノーマライゼーション・インクルージョンの理念について
3	社会福祉の理念と課題②	ニーズとは何か、ニーズの時代的変化、社会参加について理解する。
4	社会福祉の理念と課題③	自立と依存のバランス、社会福祉における平等な支援のあり方について理解する。
5	社会福祉の歴史的変遷①	社会福祉の取り組みは貧困問題から、海外の貧困問題の歴史的取り組みやその原因について、わが国の篤志家について理解する。
6	社会福祉の歴史的変遷②	防貧対策としての国による福祉の支援方法について、社会資源とは、地域の住民同士の助け合いの歴史的取り組みと現代の取り組みを理解する。
7	子ども家庭支援と社会福祉①	家族の暮らす社会を理解し、社会環境に着目する。社会福祉の支援の視点を理解する。

8	子ども家庭支援と社会福祉②	保育の社会化としての現代の地域子育て支援事業の種類を理解する。合計特殊出生率の変遷を理解する。
9	子ども家庭支援と社会福祉③	子どもの人権擁護として『子どもの権利に関する条約』の理念や『国連子どもの権利委員会』を理解する。
10	子ども家庭支援と社会福祉④	児童虐待防止法、オンブズパーソン、施設入所している子どもの権利擁護について、子どもの権利ノートについて理解する。
11	社会福祉にかかわる法律	日本国憲法第25条生存権、社会福祉の土台となる社会福祉法、福祉六法について理解する。
12	福祉の政策主体	国の組織、地方公共団体の組織と福祉、社会福祉の財源、地域福祉計画、児童福祉施設の設備運営基準、条約等について理解する。
13	福祉を支える法律	健康やケアに関する法律、障害者に関する法律、暴力からの保護に関する法律、支援者に関する法律について理解する。
14	社会福祉施設	社会福祉法による第1種・第2種社会福祉事業について理解する。
15	復習とまとめ	これまでのまとめ、復習
16	社会保険制度①	介護保険と医療保険について理解する。
17	社会保険制度②	年金保険・雇用保険・労災保険について理解する。
18	社会福祉の専門職	福祉の実施主体・地域住民による活動・専門職との連携を理解する。
19	社会福祉における利用者の保護に関する仕組み	第三者評価事業・施設内での苦情解決の仕組み・その他権利を擁護する仕組みを理解する。
20	社会福祉における相談援助①	相談援助の理論・意義・機能・対象を理解する。
21	社会福祉における相談援助②	事例を通して個人や家族に対しての相談援助の過程を理解する。
22	社会福祉における相談援助③	事例を通してグループや地域への相談援助の過程を理解する。
23	社会福祉の動向と課題①	少子超高齢社会の進行、地域の変化について理解する。
24	社会福祉の動向と課題②	子ども子育て支援新制度を中心とした少子化対策の展開について理解する。
25	その他の施策①	健やか親子21、少子化対策プラスワン、少子化社会対策基本法、次世代育成支援対策推進法などについて理解する。
26	その他の施策②	次世代育成対策推進法における行動計画策定の仕組み、男女共同参画社会と少子化対策としての育児介護休業法、社会手当てについて理解する。
27	共生社会の実現と障害者施策①	高齢社会を支える施策として介護保険法・老人福祉法を理解する。
28	共生社会の実現と障害者施策②	障害者を支える施策として障害者基本法・障害者総合支援法・障害者の権利条約・ 障害者差別解消法の合理的配慮を理解する。
29	他職種との連携とネットワーク	福祉の実施主体・地域住民による活動・専門職との連携を理解する。
30	復習とまとめ	これまでのまとめ、復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育者論		
必修選択	必修	（学則表記）	保育者論		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	『保育者論ー主体性のある保育者を目指して』 野津直樹・宮川萬寿美編著		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・“保育者とは何か”を命題とし、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追及し理解する。 ・また実際に保育現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤、それを通しての成長の過程を知る。
到達目標	①保育者の役割と倫理について理解する。 ②保育士の制度的な位置づけを理解する。 ③保育士の専門性について考察し、理解する。 ④保育者の連携・協働について理解する。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解し説明する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	新谷　和委	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務(６年)		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育者とは	現在持っている保育者のイメージについて　　保育者の法的根拠について学ぶ
2	幼稚園教諭とは	幼稚園教諭の役割を学ぶ
3	保育士とは	保育士の役割を学ぶ
4	保育教諭および施設で働く保育者	保育教諭・施設で働く保育者の役割を学ぶ
5	保育の現代的な問題①	子どもの最善の利益とは何かについて学ぶ
6	これまでのまとめ	今までの復習を行う

7	保育者の制度的位置付け	保育者の法的な定義について学ぶ
8	保育者の資質・能力	保育者の専門性を学ぶ
9	養護及び教育の一体的展開	養護と教育を一体的に行うことについて学ぶ
10	保育の質の向上	保育の質の向上について学ぶ
11	これまでのまとめ	今までの復習を行う
12	計画に基づく保育の実践と省察・評価	PDCAサイクルについて学ぶ
13	園内の保育者チーム及び家庭との連携	他の教職員や家庭との連携について学ぶ
14	専門機関や地域との連携	様々な専門機関等について学ぶ
15	保育者の葛藤と成長	保育者として葛藤するということを学ぶ
16	保育の現代的な問題②	保育者としての心の持ち様、必要なスキルについて学ぶ
17	保育を目指すあなたへ	これまでの保育者論の学びを振りかえる
18	これまでのまとめ	各回の内容振り返り、理解度確認
19	これまでのまとめ	総復習
20	保育者の専門性①	これまでの保育者論の学びを振り返る
21	保育者の専門性②	これまでの保育者論の学びを振り返る
22	これまでのまとめ	まとめ
23	実践演習①	豊かな保育実践に繋げるための保育の引き出しを増やす
24	実践演習②	豊かな保育実践に繋げるための保育の引き出しを増やす
25	実践のまとめ①	豊かな保育実践に繋げるための保育の引き出しをまとめる
26	実践のまとめ②	保育の引き出しを描く
27	保育者論のまとめ①	目指す保育者像を描く①
28	保育者論のまとめ②	目指す保育者像を描く②
29	保育者論のまとめ③	目指す保育者像のレポート発表
30	年間総まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育の心理学		
必修選択	選択	（学則表記）	保育の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	実践につながる「新しい保育の心理学」		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育現場で関わる年齢期に応じた子どもの心理と身体のあり方、およびその成長・発達について学んでいく。		
到達目標	・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる。 ・乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解できる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	多田　泰裕　他１名	実務経験	○
実務内容	小学校・中学校・高校のスクールカウンセラー、小児科のカウンセラー、ADHDの子どもへの包括的治療プログラム（くるめSTP）の実施、発達障がい児・者への行動療法（応用行動分析）・集団療法、保護者へのペアレント・トレーニングなどの経験あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について　　保育の心理学とは
2	子どもの発達を理解することの意義	発達心理学とは　　現代社会が抱える子どもの問題
3	子どもの発達と環境	各発達理論・説について
4	子ども観・保育観と発達理論からの視点	子ども観と保育観　　ボウルビィの理論とハーロウの実験
5	社会的情動	基本的信頼感の形成　　愛着理論
6	身体能力と運動機能の発達	発育・発達の原理原則
7	認知の発達	ピアジェの発達理論
8	言語の発達	言語・コミュニケーションの発達

9	アセスメント	障害と各種検査
10	発達段階　①	0・1・2歳の発達
11	発達段階　②	3・4・5歳の発達
12	発達段階　③	学童期の発達
13	総まとめ　①	振り返り　解説
14	発達段階　④	青年期の発達
15	発達段階　⑤	成人期から老年期までの発達
16	乳幼児期の学びに関する理論	学習理論
17	遊びの理論　①	乳幼児期の学び(遊び)の過程と特性
18	遊びの理論　②	乳幼児期の学び（遊び）を支える保育
19	子どもの発達と遊びの関係　①	遊びと生活習慣形成
20	子どもの発達と遊びの関係　②	幼児教育において育みたい資質・能力の整理
21	学習心理学　①	行動を身につけるということ　①
22	学習心理学　②	行動を身につけるということ　②
23	障害のある子どもの保育　①	サポートの必要な子どもについて　①
24	障害のある子どもの保育　②	サポートの必要な子どもについて　②
25	障害のある子どもの保育　③	サポートの必要な子どもについて　③
26	生涯発達を見据えた発達支援	生涯発達とは
27	発達を支援するということ	保育者は何のために子ども支援を行うのか
28	総まとめ　②	振り返り　解説
29	各発達段階における対応　①	発達を踏まえた声かけを考える　①
30	各発達段階における対応　②	発達を踏まえた声かけを考える　②

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	子どもの保健		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの保健		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	子どもの保健と安全		出版社	教育情報出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	子どもの特徴、発育・発達の様子を知る。子どもに多い疾患や事故に対する予防法・予防策・望ましい安心安全な環境づくりについて学ぶ。
到達目標	１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 ２．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 ３．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 ４．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	合志　恵
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1章　子どもの心身の健康と保健の意義	1節　保健活動の意義と目的
2	1章　子どもの心身の健康と保健の意義	2節　健康の概念と健康指数
3	1章　子どもの心身の健康と保健の意義	3節　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4	1章　子どもの心身の健康と保健の意義	4節　地域における保健活動と子どもの虐待防止
5	2章　子どもの保健の諸統計	1節　子どもの保健と人口統計
6	2章　子どもの保健の諸統計	2節　少子化時代における子どもの保健と出生率
7	2章　子どもの保健の諸統計	3節　母子保健（周産期）と、子どもの保健と死亡率
8	2章　子どもの保健の諸統計	4節　子どもの年齢別にみた事故・けが・病気の予防

9	3章　子どもの心身の発達とその評価	1節　発達の順序と連続性 2節　発達の臨界期と基本的方向性
10	3章　子どもの心身の発達とその評価	3節　子どもの精神発達
11	3章　子どもの心身の発達とその評価	4節　子どもの心身の健康状態とその把握
12	4章　子どもの生理機能の発達	1節　生体の成り立とホメオスタシス 2節　子どもの呼吸と呼吸数
13	4章　子どもの生理機能の発達	3節　乳幼児突然死症候群（SIDS）
14	4章　子どもの生理機能の発達	4節　子どもの体温
15	4章　子どもの生理機能の発達	5節　子どもの血液・循環・脈拍数
16	4章　子どもの生理機能の発達	6節　子どもの消化吸収と排泄
17	4章　子どもの生理機能の発達	7節　子どもの睡眠とホルモン
18	5章　子どもの脳神経系の発達	1節　子どもの脳神経系のしくみ 2節　神経細胞と髄鞘化
19	5章　子どもの脳神経系の発達	3節　子どもの脳神経系の発達と反射
20	6章　子どもの運動機能の発達とその評価	1節　子どもの運動機能の発達 2節　運動発達の方向性
21	6章　子どもの運動機能の発達とその評価	3節　子どもの運動発達の評価
22	7章　子どもの感覚の発達とその評価	1節　子どもの視覚の発達
23	7章　子どもの感覚の発達とその評価	2節　子どもの聴覚の発達
24	7章　子どもの感覚の発達とその評価	3節　子どもの味覚・嗅覚・触覚の発達
25	8章　子どもの歯の発達とケア	1節　子どもの乳歯と永久歯の発達 2節　子どもの歯の健康状態
26	8章　子どもの歯の発達とケア	3節　子どもの歯の健康管理
27	９章　子どもの病気と予防・手当	1節　子どもの病気
28	９章　子どもの病気と予防・手当	2節　子どもと先天性異常
29	９章　子どもの病気と予防・手当	3節　子どもと呼吸器の病気
30	９章　子どもの病気と予防・手当	4節　子どもと循環器の病気

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子どもの食と栄養Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの食と栄養Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	子どもの食と栄養　改訂第３版		出版社	中山書店	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基礎となるため、保育者として食を通じた子どもの健全育成に携わる知識を身につける。
到達目標	1.健全な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3.養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、 その内容について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	子どもの食と栄養Ⅱ
備考	**原則、この科目は対面授業形式にて実践する。**
担当教員	石井　聡子　　実務経験　○
実務内容	食品会社商品開発室（商品の企画・開発）、料理研究家（各種料理教室、雑誌の料理企画、テレビの料理コーナー出演）等の豊富な経験あり。現在は給食調理士として保育園に勤務。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	第1章　子どもの健康と食生活	乳幼児の食生活の現状
3		乳幼児の栄養アセスメント
4		朝食欠食の問題と対応
5		偏食の弊害と対応
6		噛まない子の問題と対応
7		孤食の弊害と対応
8		世界の子どもたちの食生活

9	まとめ・理解度確認	まとめ・練習問題を実施して理解度を確認する
10	第2章　栄養・食に関する基本的知識	消化吸収の仕組み
11		栄養の基礎知識
12		たんぱく質の代謝と栄養学的意義
13		糖質の代謝と栄養学的意義
14		脂質の代謝と栄養学的意義
15		ビタミンの代謝と栄養学的意義
16		ミネラルの代謝と栄養学的意義
17		食物繊維と水分
18		日本人の食事摂取基準の意義と活用
19		妊婦・授乳婦の食事摂取基準
20		乳幼児の食事摂取基準
21		学童・思春期の食事摂取基準
22	まとめ・理解度確認	まとめ・練習問題を実施して理解度を確認する
23	第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活	授乳・離乳の支援ガイド
24		乳幼児の咀嚼機能の発達と食事提供
25		乳幼児の味覚機能の発達と食事提供
26		乳幼児の消化吸収機能の発達と食事提供
27		乳幼児期栄養
28		学童・思春期の栄養
29	まとめ・理解度確認	まとめ・試験を実施して理解度を確認する
30	総まとめ	試験の振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	健康		
必修選択	選択	(学則表記)	健康		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	『健やかな育ちを支える　領域「健康」』		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「健康」の「ねらい」「内容」について理解する。 2.乳幼児の健康の諸問題について子どもたちが自ら学び、考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導のあり方について学ぶ。 3.保育活動における健康教育について学ぶ。		
到達目標	１．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 ４．保育の多様な展開について具体的に理解する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目		
関連科目	人間関係・環境・言葉・表現		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	村上　光平	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて
2	幼児と健康	幼稚園教育要領等における「健康」のねらいや内容について学ぶ。
3	発育・発達	発育、発達、成長の特徴と違いを理解し説明できるようにする。
4	運動	運動技能の発達過程および運動遊びの意義について理解する。
5	生活習慣	基本的生活習慣とその意義について学ぶ。
6	食育	生涯を健康に過ごすために必要な食育の基本を理解する。

7	幼児の保健	保育現場の保健に関する知識を学ぶ。
8	保育における安全管理	保育現場の安全管理について学ぶ。
9	現代的課題	領域「健康」に関する現代的課題と保育者の役割について学ぶ。
10	振り返り	各回内容の振り返り、理解度確認
11	領域「健康」のねらいと内容①	幼稚園教育要領にある「健康のねらい・内容・内容の取扱い」について理解する。
12	領域「健康」のねらいと内容②	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある「健康のねらい及び内容」について理解する。
13	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	幼稚園教育要領にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。
14	前期の振り返り	前期内容のまとめ
15	子どもの発育発達①	乳幼児期を通しての心身の発達について理解する。
16	子どもの発育発達②	乳幼児期を通しての運動能力の発達について理解する。
17	子どもの運動①	運動能力調査に見る子どもの心身の変化について理解する
18	子どもの運動②	運動能力を低下させた原因について理解する。
19	子どもの運動③	最近の子どもたちの現状について学ぶ。
20	子どもの生活習慣①	基本的生活習慣に関わる子どもの発達について理解する。
21	子どもの生活習慣②	園における基本的生活習慣を促す援助について学ぶ。
22	子どもの食育①	子どもの食生活の現状について知る。
23	子どもの食育②	子どもの食育について理解する。
24	子どもの保健①	保育における健康管理の重要性を理解する。
25	子どもの保健②	保育における健康管理の方法を理解する。
26	子どもの安全管理①	園内での事故事例を知り、安全教育について理解する。
27	子どもの安全管理②	園内外での事故や災害事例を知り、安全教育について学ぶ。
28	保育の現代的課題	現代社会における園や保育者に求められることについて理解する。
29	後期の振り返り	後期内容のまとめ
30	1年の振り返り	子どもの健康を支え育む保育者の役割について自身の考えを整理する。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	人間関係		
必修選択	選択	（学則表記）	人間関係		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	ワークで学ぶ保育内容「人間関係」		出版社	みらい	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	幼児期の人間関係の発達に関する学びを基に、領域「人間関係」のねらい及び内容への理解を深める。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法や保育の展開について、演習を通して身に付ける。
到達目標	1.領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。 2.幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 3.幼児期の人間関係の発達に付いて、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。
関連資格	保育士・小田原短大関連科目
関連科目	健康・環境・言葉・表現・人間関係指導法
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	三浦　美保　　実務経験　○
実務内容	保育園にて保育士として勤務(７年１１か月)、保育園にて園長として勤務(１年)、児童館にて児童指導員として勤務(２年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・到達目標について
2	第1編　子どもを取り巻く人間関係について	・人間関係とは ・子どもの人間関係
3	第1編　保育における人間関係について	・領域「人間関係」とは ・園生活で育まれる領域「人間関係」
4	第1編　乳児期の人間関係について	・0歳児の人間関係の発達 ・0歳児の生活と遊び
5	第1編　1歳児以上3歳児未満児の人間関係について	・1歳児以上3歳児未満の人間関係の発達 ・遊びと生活・保育者の役割
6	第1編　3歳児以上児の人間関係について	・3歳児以上の人間関係の発達 ・遊びと生活・保育者の役割
7	第1編　子どもの人間関係の社会性・道徳性について	・社会性の育ち ・道徳性の育ち
8	第1編　家庭や地域との連携	・保護者と保育者の人間関係 ・地域との連携

9	第1編　保育者が紡ぐ「人間関係」	・保育者自身の人間関係 ・子ども理解に向けて
10	振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認
11	振り返り	総復習
12	第1編まとめ①	・子どもを取り巻く人間関係について学ぶ ・保育における人間関係について学ぶ
13	第1編まとめ②	・乳児期の人間関係について学ぶ ・1歳児以上3歳児未満児の人間関係について学ぶ
14	第1編まとめ③	・3歳児以上児の人間関係について学ぶ ・子どもの人間関係の社会性・道徳性について学ぶ
15	第1編まとめ④	・家庭や地域との連携 ・保育者が紡ぐ「人間関係」
16	第1編　公園や子育て支援センターで子どもの遊ぶ様子①	公園や子育て支援センターで子どもの遊ぶ様子を学ぶ①
17	第1編　公園や子育て支援センターで子どもの遊ぶ様子①	公園や子育て支援センターで子どもの遊ぶ様子を学ぶ②
18	第1編　幼児期の終わりまでに育ってほしいすがたについて①	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について学ぶ①
19	第1編　幼児期の終わりまでに育ってほしいすがたについて①	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について学ぶ②
20	第1編　乳児をあやす時に配慮すべきポイントについて①	乳児をあやす時に配慮すべきポイントについて学ぶ①
21	第1編　乳児をあやす時に配慮すべきポイントについて①	乳児をあやす時に配慮すべきポイントについて学ぶ②
22	第1編　1歳以上3歳未満児に対する保育者の役割について①	１歳以上３歳未満児に対する保育者の役割について学ぶ①
23	第1編　1歳以上3歳未満児に対する保育者の役割について①	１歳以上３歳未満児に対する保育者の役割について学ぶ②
24	第1編3歳以上児に対する保育者の役割について①	３歳以上児に対する保育者の役割について学ぶ①
25	第1編3歳以上児に対する保育者の役割について②	３歳以上児に対する保育者の役割について学ぶ②
26	第1編子どもの人間関係の社会性・道徳性を事例をもとに学ぶ	子どもの人間関係の社会性・道徳性を事例をもとに学ぶ
27	第1編　家庭や地域との連携を事例をもとに学ぶ	家庭や地域との連携を事例をもとに学ぶ
28	第1編自身が目指す保育者像について	自身が目指す保育者像について
29	第1編まとめ	授業第16回～第28回のまとめ
30	「人間関係」総まとめ	まとめと振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	環境		
必修選択	選択	(学則表記)	環境		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	[新版]保育内容「環境」		出版社	大学図書出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	領域「環境」における内容を基本として、子どもが環境とかかわる力を培うことができるようなより具体的な指導法とはどういったものかを考える。指導計画を実際に作成し、それを実践する中で子どもへの援助の在り方等を学ぶ。模擬保育を通して実践的に学ぶ。
到達目標	１．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 ４．保育の多様な展開について具体的に理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	健康・人間関係・言葉・表現
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	三浦　美保
実務経験	○
実務内容	保育園にて保育士として勤務(７年１１か月)、保育園にて園長として勤務(１年)、児童館にて児童指導員として勤務(２年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 領域「環境」とは	領域「環境」を生かす幼稚園教諭・保育士の役割
2	保育における環境とは	園というあり方～保育における環境の基本的な考え方について学ぶ～ 幼稚園教育要領と保育所保育指針・領域「環境」の「ねらい」「内容」について
3	子どもの生活と保育環境	人的環境・物的環境・自然環境・社会環境について理解する。リスクとハザードについて理解する。
4	物的環境との関わり	物的環境との関わり・遊びについて学ぼう

5	自然環境との関わり	命の尊さについて子どもに伝えるときに配慮すべき事を理解する。
6	子どもを取り巻く社会環境	園と地域社会とのつながりについて学ぶ
7	数量・図形・文字・標識との関わりと保育と行事	数量・図形・文字・標識等と関わる大切さを学ぶ 保育現場の行事について学習する
8	遊びを通してのメディア	遊びを通して関わる内容としての科学、情報メディアについて学ぶ
9	事を通しての関わり	四季の変化と歴・四季の行事を学び、四季の行事を知る
10	振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認
11	振り返り	総復習
12	園の環境構成	乳児・幼児の環境の特性について学ぶ
13	物とのかかわりと遊び	幼児にとって身近な遊びとかかわりを考える①
14	物とのかかわりと遊び	幼児にとって身近な遊びとかかわりを考える②
15	学びの振り返り	まとめと振り返り
16	保育と行事	四季の変化と歴・四季の行事を学び、四季の行事を知る
17	保育と行事	
18	環境教育について子どもを取り巻く情報メディア	環境教育が目指しているものを理解する。情報メディアのより良い扱い方を熟考する。
19	環境教育について子どもを取り巻く情報メディア	
20	障害児保育の保育環境	障害のある子どもを理解し、園環境・園外環境について学ぶ
21	障害児保育の保育環境	障害の子ども達をとりまく環境・関わり方について考える
22	子どもを取り巻く情報メディアについて	子どもと情報メディア
23	子どもを取り巻く情報メディアについて	見て聞いて楽しむ情報メディア・遊んで楽しむ情報メディア

24	指導案作成・実践	飼育栽培の指導案計画・作成をする
25		
26		飼育栽培について発表をを行う
27	園生活の年間行事	①園生活の年間行事について学ぶ ②園生活の年間行事作成・発表
28		
29		
30	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	言葉		
必修選択	選択	（学則表記）	言葉		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育において育みたい幼児の資質・能力について学ぶとともに、領域「言葉」のねらい及びないようについての理解を深める。また、言葉の発達に即して、言葉遊びや児童文化財を適切に活用する技術を体験的に学び、保育を構想する力を身につける。
到達目標	１．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 ４．保育の多様な展開について具体的に理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	健康・人間関係・環境・表現
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	神宮　咲希　　実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて説明。 言葉の必要性について考える。
2	人間と言葉	言葉の不思議で奥深い側面について考え、「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する。
3	乳幼児期の言葉の獲得	乳幼児は自ら言葉を獲得する力を持って生まれてくることを知る。乳幼児が言葉と言葉の仕組みをどのようにして見つけているのか、その概略を理解する。
4	言葉の豊かさ	日本語の特徴を理解するとともに、日本語の美しさ、豊かさ、美しさを実感する。
5	言葉遊び	言葉遊びの歴史や保育における位置づけ、発達段階に応じた遊び方を知る。言葉遊びを体験し、楽しさを実感するとともに、活用法について考える。
6	児童文化財①〔おはなし〕	保育における児童文化財活用の意義を理解するとともに、「おはなし」の活用方法を身につける。
7	児童文化財②〔紙芝居〕	日本独特の文化財である紙芝居の歴史と特性を知るとともに、紙芝居の演じ方のポイントを押さえて実演できるようになる。

8	児童文化財③〔絵本とは何か〕	絵本各部の名称や絵本のジャンルを知るとともに、絵と言葉が協力する絵本の特性を理解する。
9	児童文化財④〔絵本と子ども〕	効果的な「絵本の読み聞かせ」方法を身につける。絵本の中に描かれた子どもについて考察する。
10	学びの振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認
11	学びの振り返り	総復習
12	言葉の豊かさ	日本語の特徴を理解するとともに、日本語の美しさ、豊かさ、美しさを実感する。
13	実践　言葉遊び	言葉遊び①　言葉を集める遊び、言葉を感じる遊び
14	実践　言葉遊び	言葉遊び②　言葉を発信する遊び
15	総まとめ①	前期の振り返りとまとめ
16	実践　児童文化財①〔おはなし〕	「おはなし」の実践①　作品選び
17	実践　児童文化財①〔おはなし〕	「おはなし」の実践②　練習
18	実践　児童文化財①〔おはなし〕	「おはなし」の実践③　実践発表
19	実践　児童文化財①〔おはなし〕	「おはなし」の実践④　実践発表・振り返り
20	児童文化財③〔絵本とは何か〕	絵本の基礎知識、特性について理解を深める。
21	児童文化財③〔絵本とは何か〕	絵本の基礎知識、特性について理解を深める。
22	児童文化財④〔絵本と子ども〕	効果的な「絵本の読み聞かせ」方法を身につける。絵本の中に描かれた子どもについて考察する。
23	児童文化財④〔絵本と子ども〕	効果的な「絵本の読み聞かせ」方法を身につける。絵本の中に描かれた子どもについて考察する。
24	実践　おはなし会	おはなし会①　児童文化財を活用したプログラム作成
25	実践　おはなし会	おはなし会②　児童文化財を活用したプログラム作成
26	実践　おはなし会	おはなし会③　児童文化財を活用したプログラム練習
27	実践　おはなし会	おはなし会④　児童文化財を活用したプログラム実践発表
28	実践　おはなし会	おはなし会⑤　児童文化財を活用したプログラム実践発表
29	実践　おはなし会	おはなし会⑥　児童文化財を活用したプログラム実践発表・振り返り
30	総まとめ②	１年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	音楽表現Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	60
使用教材	幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ 保育のためのやさしい子どもの歌ー弾き歌い・合奏・連弾・合唱ー		出版社	萌文書林 ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育現場で必要な実践的なピアノ演奏の基礎技術を身に付ける。		
到達目標	生活のうたを3曲弾き歌いができる。 季節、こどものうたを複数曲演奏することができる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育科:保育士　こども総合学科:小田原短期大学関連科目		
関連科目	造形表現Ⅰ・身体表現Ⅰ・言語表現・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ・音楽表現Ⅵ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	高山　ひとみ　他１名	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ピアノを弾くための基礎知識	楽譜の基本　ピアノを弾く姿勢　手の形　指番号
2	ハ長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」かえるの合唱、虫の声など
3	ハ長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」むすんでひらいて、大きなくりの木の下でなど
4	ハ長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」かたつむり、てをたたきましょうなど
5	成果発表①	ハ長調の曲の振り返り①
6	ハ長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」こいのぼり、きらきらぼしなど
7	ハ長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」森のくまさん、アイアイなど
8	ハ長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」おもちゃのチャチャチャ、夕やけこやけなど

9	ハ長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」から各自の進度に基づき練習
10	成果発表②	ハ長調の曲の振り返り②
11	ヘ長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」ブンブンブン、たなばたさまなど
12	ヘ長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」ありさんのおはなし、お正月など
13	ヘ長調、ト長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」山の音楽家、うみなど
14	ヘ長調、ト長調の曲　練習	「保育のためのやさしいこどもの歌」から各自の進度に基づき練習
15	前期振り返り	レパートリーのチェック
16	コードネームによる伴奏法	ハ長調音階　主要三和音
17	「おかえりのうた」導入	片手奏　左手コード奏
18	「おかえりのうた」練習	両手奏　弾き歌い
19	「朝のうた」導入	片手奏　左手コード奏
20	「朝のうた」練習	両手奏　弾き歌い
21	「おべんとう」導入	片手奏　左手コード奏
22	「おべんとう」練習	両手奏　弾き歌い
23	成果発表③	生活のうた3曲振り返り　まとめ　確認
24	季節・こどものうたのレパートリー拡大	「保育のためのやさしいこどもの歌」から各自の進度に基づき曲を決め、練習
25	季節・こどものうたのレパートリー拡大	「保育のためのやさしいこどもの歌」から各自の進度に基づき曲を決め、練習
26	季節・こどものうたのレパートリー拡大	「保育のためのやさしいこどもの歌」から各自の進度に基づき曲を決め、練習
27	生活のうた　確認	生活のうた　弾き歌い　グループの歌唱伴奏をするなど　練習　確認　チェック
28	生活のうた　確認	生活のうた　弾き歌い　グループの歌唱伴奏をするなど　練習　確認　チェック
29	後期振り返り	生活のうた　季節こどものうた　確認　チェック
30	一年間の振り返り	各自レパートリーの確認　発表会

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	造形表現Ⅰ		
必修選択	必修	（学則表記）	造形表現Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	60
使用教材	生活事例からはじめる造形表現		出版社	青踏社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①保育者としての造形表現活動の基礎知識の習得を目的とし、具体的な造形技法、道具、素材の活用法と留意点を知る。 ②園生活の年間行事や、子どもの発達に準じた指導案の作成により実践力を身につける。 ③物事を多角的に洞察することで感動する心を養い、保育者として必要な自身の感性を磨く。
到達目標	①造形技法、道具、素材を使って、教材の工夫や用具を使いこなせるようになる。 ②造形表現活動の指導計画を立てることができるようになる。 ③保育者として必要な自身の感性を磨き、それを表現できる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	音楽表現Ⅰ・身体表現Ⅰ・言語表現・造形表現Ⅱ・造形表現Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	宮田　雅歌　他１名
実務経験	○
実務内容	幼稚園・保育園にて絵画造形講師として勤務(８年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、評価について 幼児期における絵画表現の理解
2	平面表現Ⅰ	幼児期の平面表現の基礎
3	平面表現Ⅰ	幼児期の平面表現の基礎
4	立体表現Ⅰ	幼児期の立体表現の基礎
5	立体表現Ⅰ	幼児期の立体表現の基礎
6	幼児の造形活動の基礎	保育現場における用具や道具について
7	表現の原理（色彩）	色彩学の基礎

8	表現の原理（構図法）	構図の基礎
9	協働しての表現	グループによる見立て画の創作
10	保育での模擬保育（基礎）	保育現場における造形活動方法の理解と、保育教案作成
11	保育での模擬保育（基礎）	保育現場における造形活動方法の理解と、保育教案作成
12	総復習	これまでの確認
13	保育者の役割	造形活動における保育者の役割
14	素材の探求	自然素材と生活素材
15	平面表現制作Ⅱ	幼児期の平面表現の応用
16	平面表現制作Ⅱ	幼児期の平面表現の応用
17	平面表現制作Ⅱ	身近なモノ（生活素材など）を活用した平面制作
18	立体表現制作Ⅱ	幼児期の立体表現の応用
19	立体表現制作Ⅱ	幼児期の立体表現の応用
20	立体表現制作Ⅱ	身近なモノ（生活素材など）を活用した立体制作
21	保育教材	保育教材デザイン「創案」
22	保育教材	保育教材デザイン「制作」
23	色のあそび	多種多様な素材をつかって色をつくる
24	音のあそび	音のイメージを描く
25	共同制作	保育現場における大型制作物の作成
26	共同制作	保育現場における大型制作物の作成
27	保育での模擬保育（応用）	造形活動デザイン「準備」
28	保育での模擬保育（応用）	造形活動デザイン「実践」
29	保育での模擬保育（応用）	造形活動デザイン「ふりかえり」
30	総合	一年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	身体表現Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	身体表現Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①幼児期に適切な運動プログラムを実践し、楽しさや難しさを理解する。 ②こどもへの適切な声かけの仕方や、指導方法・安全管理などを理解する。
到達目標	①こどもが、幼児期に感じるであろう楽しさや難しさを感じる。 ②活動の際に、道具の正しい使用方法を指導できる。 ③道具使用の際に、安全管理の声かけができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	音楽表現Ⅰ・造形表現Ⅰ・言語表現・身体表現Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	三重野　夏妃	実務経験	○
実務内容	フィギュアスケートインストラクターとして勤務(１２年)、子どもから大人までパーソナルトレーナーとして勤務(１４年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業内容の説明	年間の授業内容（展開）の説明
2	体ほぐし運動	体ほぐし運動の実践※様々な方法で実践
3	からだで遊ぶ①	道具を使用しない運動遊びの実践①
4	からだで遊ぶ②	道具を使用しない運動遊びの実践②
5	道具を使った遊び①	幼児体育における基本的な道具の使用法を説明
6	道具を使った遊び②	幼児体育における基本的は道具を使用したペア・集団遊びの実践
7	道具を使った遊び③	ボール等を使用した運動遊びの実践
8	道具を使った遊び④	ボール等使用し、ペア・集団遊びの実践
9	道具を使った遊び④	幼児の発育に応じた縄の使用方法・声かけの仕方・指導方法

10	道具を使った遊び⑤	長縄・短縄等を使用し様々な跳び方を経験する
11	道具を使った遊び⑥	幼児の手本となれるように、学生自身が課題をクリアする
12	道具を使った遊び⑦	長縄・短縄等の実技課題
13	道具を使った遊び⑧	マット運動等の導入方法と安全管理、声かけ、マット遊び
14	道具を使った遊び⑨	マット運動等における倒立、ブリッジ、前転、後転、側転の補助の仕方、指導方法
15	道具を使った遊び⑩	跳び箱・鉄棒・平均台等の方法と安全管理
16	道具を使った遊び⑪	跳び箱・鉄棒・平均台等を利用した遊びと、使い方、指導方法、声かけの仕方などを学ぶ
17	道具を使った遊び⑫	補助の正しい仕方を覚える
18	道具を使った遊び⑬	マット運動等における倒立、ブリッジ、前転、後転、側転、その他マット運動の技を実践する
19	道具を使った遊び⑭	跳び箱（開脚跳び）鉄棒（前回り、逆上がり）平均台等（前向きに歩く、後ろ向きに歩く） 実技課題
20	道具を使った遊び⑮	マット運動等の実技確認
21	道具を使った遊び⑯	ボール運動等の安全管理
22	道具を使った遊び⑰	ボール運動等の実践
23	からだづくり・運動を楽しむ	からだづくりの基本、運動の楽しさを学ぶ
24	からだづくり・勝ち負けを楽しむ	からだづくりの基本、勝ち負けを学ぶ
25	リズムに合わせて体を動かす①	音楽や、リズムに合わせて体を動かすことを学ぶ
26	リズムに合わせて体を動かす②	リズムダンス作成
27	リズムに合わせて体を動かす③	リズムダンス作成
28	リズムに合わせて体を動かす④	リズムダンス作成
29	リズムに合わせて体を動かす⑤	リズムダンス作成
30	リズムに合わせて体を動かす⑥	リズムダンス発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	言語表現		
必修選択	選択	（学則表記）	言語表現		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	保育実践に生きる『言語表現』児童文化財活用のエッセンス		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①素話や絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、言葉遊びなど、子どもの言語発達に関わる児童文化財の特徴や正しい扱い方を学ぶ。 ②集団を前にしての実技と相互批評を通して、保育現場で子どもの言語活動を豊かに展開する実践力を身につける。
到達目標	①子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ②保育における教材等の活用及び作成と保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	音楽表現Ⅰ・造形表現Ⅰ・身体表現Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	神宮　咲希
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて、実践の役割分担や相互評価について
2	言語表現とは	言語表現の位置づけについて
3	児童文化財とは	児童文化財について歴史や活用、子どもの発達に応じた活用について①
4	児童文化財とは	児童文化財について歴史や活用、子どもの発達に応じた活用について②
5	絵本読み聞かせ	絵本の特性と表現技術について
6	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価①
7	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価②
8	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価③

9	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価④
10	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価⑤
11	おはなし	おはなしの特性と表現技術について①
12	おはなし	おはなしの特性と表現技術について②
13	おはなし	おはなしの実践・発表、相互評価
14	紙芝居	紙芝居の特性と表現技術
15	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価①
16	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価②
17	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価③
18	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価④
19	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの特性と表現技術について
20	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成①
21	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成②
22	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成③
23	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成④
24	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成⑤
25	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの実践・発表、相互評価①
26	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの実践・発表、相互評価②
27	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの実践・発表、相互評価③
28	まとめ	全体を通した感想文・相互評価①
29	まとめ	全体を通した感想文・相互評価①
30	まとめ	全体を通した感想文・相互評価①

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	乳児保育Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	乳児保育Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	コンパス　乳児保育		出版社	建帛社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	乳児保育の意義、目的、歴史的変遷、役割などを現状と課題を含めて学ぶ。保育所や乳児院等多様な保育の場を知り、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容を理解し、その運営体制や職員間の連携、家庭、地域との連携等つ
到達目標	１、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する。 ２、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ３、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ４、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは3歳未満児を念頭においた保育を示す。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。
関連資格	保育士
関連科目	乳児保育Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	大隈　育子　　実務経験　○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務(１８年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	乳児保育とは	乳児保育を学ぶ目的・乳児保育の課題
2	乳児保育とは	保育所保育指針からみる乳児保育
3	乳児保育の基本	乳児保育の日本社会の歴史的変遷
4	乳児保育の基本	現代の乳児保育の社会的役割
5	乳児保育の制度と課題 乳児保育における連携	多様な子育て支援政策と乳児が過ごす多様な場 子育て支援のシステムの背景とそのシステム
6		
7		
8	第１回目復習	これまでの復習

9	１歳未満児の発達過程からみる保育内容①	0～6か月未満児への望ましい支援と援助方法
10	１歳未満児の発達過程からみる保育内容②	6か月以上1歳児未満児への望ましい支援と援助方法
11	１歳以上３歳未満児の発達過程からみる保育内容①	1歳児以上2歳児未満児への望ましい支援と援助方法
12	１歳以上３歳未満児の発達過程からみる保育内容②	2歳児以上3歳児未満児への望ましい支援と援助方法
13	第２回復習	これまでの復習
14	基本的生活習慣の獲得①	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 （睡眠）
15	基本的生活習慣の獲得②	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 （排泄）
16	基本的生活習慣の獲得③	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 （着脱・清潔）
17	基本的生活習慣の獲得④	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 （食事）
18	食事の計画、提供及び評価・改善①	冷凍・冷蔵母乳と食物アレルギー
19	食事の計画、提供及び評価・改善②	保育室での配慮
20	第3回復習	これまでの復習
21	乳児保育の計画と記録①	指導計画の理解
22	乳児保育の計画と記録②	指導計画の作成
23	乳児保育の計画と記録③	個別配慮と環境・職員間の協働
24	乳児保育における連携	子育て支援の連携法
25	子育てをめぐる家族の権利と責任①	児童福祉法・教育基本法からの検討・演習
26	子育てをめぐる家族の権利と責任②	児童の権利に関する条約からの検討・演習
27	第4回目復習	これまでの復習
28	演習	乳児にも使える玩具作り
29	発表	乳児にも使える玩具作り
30	総まとめ	授業のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	障害児保育		
必修選択	選択	(学則表記)	障害児保育		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	60
使用教材	『アクティブ・ラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育　3版』尾野明美・小湊真衣 『特別支援教育・保育概論 -特別な配慮を要する子どもの理解と支援-改訂新版』		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	障害児等の理解と保育における援助、指導計画及び個別の支援計画の作成、生活や遊びの環境、子ども同士の関係性、職員間の連携・協働について学ぶとともに、家庭・関係機関及び小学校等との連携・協働について理解し、保健・医療・福祉・教育の現状と課題を知る。
到達目標	①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関とその連携・協働について理解する。 ⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	冨永　奈美
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	特別の支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念①	オリエンテーション／障害の概念と障害児の教育・保育の歴史的変遷 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み
2	特別の支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念②	障害のある子どもの地域社会への参加・包摂及び合理的配慮の理解 障害児保育の基本
3	障害児等の理解と教育・保育における発達の支援①	肢体不自由児の理解と支援 知的障害児の理解と支援
4	障害児等の理解と教育・保育における発達の支援②	視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援 ことばの発達に障害のある子どもへの理解と支援
5	障害児等の理解と教育・保育における発達の支援③	重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援 病弱児の理解と支援
6	障害児等の理解と教育・保育における発達の支援④	発達障害児(ADHD, SLD)の理解と支援 発達障害児(ASD)の理解と支援

7	障害児等の理会と教育・保育における発達の支援⑤	その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援
8	幼稚園及び保育所等における障害児その他の特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際①	全体的な計画及び指導計画、個別の支援計画の作成
9	幼稚園及び保育所等における障害児その他の特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際②	個々の発達を促す生活や遊びの環境／子ども同士の関わりと育ち合い／ 障害児の教育・保育における子どもの健康と安全／職員間の連携・協働
10	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援方法	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容／「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を作成する意義と方法／特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭と連携しながらの支援体制の構築
11	家庭及び自治体・関係機関との連携	保護者や家族に対する理解と支援／保護者間の交流や支え合いの意義とその支援／障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関の連携・協働／小学校等との連携
12	障害その他の特別な配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題	保健・医療における現状と課題／福祉・教育における現状と課題／支援の場の広がりとつながり／障害者の自立と就労支援
13	前期のまとめ①	第1回から第12回までの振り返り①
14	前期のまとめ②	第1回から第12回までの振り返り②
15	前期のまとめ③	第1回から第12回までの振り返り③
16	エピソードから読み解く障害児保育①	0歳児の発達（基礎理論）
17	エピソードから読み解く障害児保育②	0歳児の発達（ケーススタディ）
18	エピソードから読み解く障害児保育③	1歳児の発達（基礎理論）
19	エピソードから読み解く障害児保育④	1歳児の発達（ケーススタディ）
20	エピソードから読み解く障害児保育⑤	2歳児の発達（基礎理論）
21	エピソードから読み解く障害児保育⑥	2歳児の発達（ケーススタディ）
22	エピソードから読み解く障害児保育⑦	3歳児の発達（基礎理論）
23	エピソードから読み解く障害児保育⑧	3歳児の発達（ケーススタディ）
24	エピソードから読み解く障害児保育⑨	4歳児の発達（基礎理論）
25	エピソードから読み解く障害児保育⑩	4歳児の発達（ケーススタディ）
26	エピソードから読み解く障害児保育⑪	5歳児の発達（基礎理論）
27	エピソードから読み解く障害児保育⑫	5歳児の発達（ケーススタディ）
28	エピソードから読み解く障害児保育⑬	6歳児の発達（基礎理論／ケーススタディ）
29	後期のまとめ①	第16回から第28回までの振り返り①
30	後半のまとめ②	第16回から第28回までの振り返り②

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習指導Ⅰ（保育所）		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	①最新保育園幼稚園の実習完全マニュアル ②書き方・あそび・保育のコツがわかる実習の日誌と指導案サポートブック		出版社	①成美堂出版 ②ナツメ社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育実習の意義や目的を理解し、実習に必要な知識や技術、心構えを身に付ける。		
到達目標	①保育実習の意義・目的を理解する。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の２/３以上ある者。 成績評価が３以上の者。 保育実習Ⅰ(保育所）の単位を取得している者。		
関連資格	保育科:保育士		
関連科目	保育実習指導Ⅰ（施設）・実習指導・保育実習指導Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	眞榮田　俊　他１名	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務（１４年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス 実習スケジュールについて	授業ガイダンス 実習スケジュール確認、保育実習について
2	保育実習の意義・目的 心構え	必要書類作成の意義・目的を知る 保育実習の取り組み方・プライバシー保護と守秘義務について
3	保育実習に向けて	保育実習に向けての準備・必要書類の内容確認 実習オリエンテーションに向けての準備
4	保育所の一日	保育所のデイリープログラムを知る 実習中の生活を知る
5	実習日誌の書き方	保育日誌の書き方
6	実習日誌の書き方	保育日誌の書き方
7	0歳児の発達と配慮	０歳児の発達を知り、必要な配慮点を知る

8	年齢別教材研究日誌演習	0歳児の実習日誌演習
9	１歳児の発達と配慮	１歳児の発達を知り、必要な配慮点を知る
10	年齢別教材研究日誌演習	１歳児の実習日誌演習
11	２歳児の発達と配慮	２歳児の発達を知り、必要な配慮点を知る
12	年齢別教材研究日誌演習	２歳児の実習日誌演習
13	３歳児の発達と配慮	３歳児の発達を知り、必要な配慮点を知る
14	年齢別教材研究日誌演習	３歳児の実習日誌演習
15	４歳児の発達と配慮	４歳児の発達を知り、必要な配慮点を知る
16	年齢別教材研究日誌演習	４歳児の実習日誌演習
17	5歳児の発達と配慮	５歳児の発達を知り、必要な配慮点を知る
18	年齢別教材研究日誌演習	５歳児の実習日誌演習
19	指導案の書き方	五領域に沿った指導案作成
20	指導案作成	実習に向けた指導案作成
21	年齢別教材研究（０・１歳）	０・１歳の発達特徴に応じた環境設定と教材研究
22	年齢別指導案作成（０・１歳）	０・１歳の部分実習を想定した指導案作成
23	年齢別教材研究（２・３歳）	２・３歳の発達特徴に応じた環境設定と教材研究
24	年齢別指導案作成（２・３歳）	２・３歳の部分実習を想定した指導案作成
25	年齢別教材研究（４・５歳）	４・５歳の発達特徴に応じた環境設定と教材研究
26	年齢別指導案作成（４・５歳）	４・５歳の部分実習を想定した指導案作成
27	実習ガイダンス お礼状の書き方	実習の目的と概要・実習規定・実習の心構え
28	部分・責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案作成
29	部分・責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案作成
30	実習直前指導	保育実習に向けた学びの振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習指導Ⅰ（施設）		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	事例を通して学びを深める 施設実習ガイド		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育実習の理解を高め、保育士としての基本的な態度、知識、技術の基礎を形成するとともに、保育実習に向けた課題の明確化を図る
到達目標	①保育実習の意義・目的を理解する。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。☒
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の２/３以上ある者。 成績評価が３以上の者。 保育実習Ⅰ（施設）の単位が取得できている者。
関連資格	保育科:保育士
関連科目	保育実習指導Ⅰ（保育所）・保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	眞榮田　俊　他１名	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務（１４年）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習の概要	保育実習に向けての準備する内容を理解する
2	保育実習の目的理解	施設実習の「目的」を理解する
3	保育実習の意義理解	施設実習の「意義」を理解する
4	保育実習の内容理解	施設実習の「内容」を理解する
5	倫理綱領①	保育士倫理綱領を理解する
6	倫理綱領②	保育士倫理綱領を理解する
7	実習先の種類と概要①	実習先の施設種類における概要を理解する
8	実習先の種類と概要②	実習先の施設種類における概要を理解する

9	実習先の種類と概要③	実習先の施設種類における概要を理解する
10	実習施設調査	自分の実習先について調べ、施設種別と実習先の特徴について整理する
11	保育実習内容の明確化	実習施設調査を踏まえて実習先の施設種別と保育実習における内容の位置付けを図る
12	保育実習課題の明確化	実習施設調査を踏まえて保育実習を通しての課題及び各実習日の実習課題について検討する
13	実習生としての心構え①	心構え、実習時の服装、基本的な礼儀、マナー、電話のかけ方について考える
14	実習生としての心構え②	通所施設における礼儀やマナー、宿泊に伴う礼儀やマナーについて考える
15	プライバシーの保護と守秘義務	実習先における入所、通所児者のプライバシー保護及び守秘義務について理解する
16	トラブルシューティング	保育実習におけるトラブル事例について考察し、対応策について検討する
17	実習における計画	実習期間における実習計画書を作成する
18	保育実習における観察	保育実習における観察実習について理解する
19	保育実習における記録の意義・方法	実習日誌の意義と方法を理解する
20	保育実習における記録①	実習日誌の書き方を理解し、実際に作成する
21	保育実習における記録②	実習日誌の記載方法について深める
22	部分実習指導案	部分実習指導案の立て方を学ぶ 自分の実習先を想定し、指導案を書く
23	お礼状の書き方	お礼状の書き方について理解し、作成する
24	実習の振り返り	実習における振り返りを行い自己覚知を図る
25	実習報告書の作成①	実習計画書に基づき、実習報告書を作成する
26	実習報告書の作成②	実習計画書に基づき、実習報告書を作成する
27	発表①	保育実習を通しての学びを他者と共有する
28	発表②	保育実習を通しての学びを他者と共有する
29	実習の総括と自己評価	保育実習を通しての総括と自己評価を行う
30	課題の明確化	実習を通して学んだことを振り返る

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	教育制度論		
必修選択	選択	(学則表記)	教育制度論		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	30
使用教材	『【新訂版】保育者・小学校教員のための教育制度論―この一冊で基礎から学ぶ』内山絵美子・山田知代・坂田仰編著		出版社	教育開発研究所	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・教育・保育実践の制度における構造や原理、社会的意義、必要性などの基礎を学び身に付ける。 ・現在に至るまでの制度の変化や最近の政策動向を踏まえた現行の教育制度の課題と解決策を理解する。
到達目標	①教育制度とは何か、目的や具体的な内容がわかるようにする。 ②現行の教育制度における様々な課題と解決に向けた取り組みについて説明ができる。 ③子ども、教育者、教育実践、社会全体に資する教育制度の在り方について考えることができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	高松　秀幸
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて園長として勤務(９年)、保育園にて副園長として勤務(３年)、職業訓練校にて校長として勤務(３年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	教育制度とは何か	・教育制度とは何か ・現代の教育制度
2	学校教育に関する仕組み	・学校教育制度 ・義務教育制度
3	就学前の教育・保育に関する仕組み	・幼児教育制度 ・保育制度の構造
4	教育行政の仕組み	地方教育行政の制度
5	これまでのまとめ	まとめ
6	学校経営と学校・家庭・地域の連携	・学校経営の制度 ・学校と地域の連携
7	特別支援教育に関する仕組み	特別支援教育制度
8	子どもの安全安心に関する仕組み	・児童の問題行動 ・子どもの事故

9	子どもの安全安心に関する仕組み	・児童の問題行動 ・子どもの事故
10	子育て支援の制度	子育て支援をめぐる政策と課題
11	これまでのまとめ	まとめ
12	教育制度とは何か	・教育制度とは何か ・現代の教育制度
13	教育制度とは何か	・教育制度とは何か ・現代の教育制度
14	学校教育に関する仕組み	・学校教育制度 ・義務教育制度
15	学校教育に関する仕組み	・学校教育制度 ・義務教育制度
16	就学前の教育・保育に関する仕組み	・幼児教育制度 ・保育制度の構造
17	これまでのまとめ	まとめ
18	教育行政の仕組み	地方教育行政の制度
19	教育行政の仕組み	地方教育行政の制度
20	学校経営と学校・家庭・地域の連携	・学校経営の制度 ・学校と地域の連携
21	学校経営と学校・家庭・地域の連携	・学校経営の制度 ・学校と地域の連携
22	これまでのまとめ	まとめ
23	特別支援教育に関する仕組み	特別支援教育制度
24	特別支援教育に関する仕組み	特別支援教育制度
25	子どもの安全安心に関する仕組み	・児童の問題行動 ・子どもの事故
26	子どもの安全安心に関する仕組み	・児童の問題行動 ・子どもの事故
27	子どもの安全安心に関する仕組み	・児童の問題行動 ・子どもの事故
28	子育て支援の制度	子育て支援をめぐる政策と課題
29	子育て支援の制度	子育て支援をめぐる政策と課題
30	年間総復習	総復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	地域支援実践		
必修選択	選択	(学則表記)	地域支援実践		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	60
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②	
授業のねらい	地域社会において福祉・教育・保育等の領域に関わるボランティア活動に参加することを通して、多様な能力の育成、社会性の涵養ならびに実践による知識技術の習得などを目指す。
到達目標	①専門分野を活かして地域社会に貢献する。 ②保育実習の事前・事後の学習に役立てる。 ③進路選択の一助とする。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	田中　友梨　他３名
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務（１０年）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	幼稚園教諭・保育士養成課程　子どものための音楽表現技術 ー感性と実践力豊かな保育士へー 保育のためのやさしい子どもの歌ー弾き歌い・合奏・連弾・合唱ー		出版社	萌文書林 ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育者に必要な音楽の知識を身に付け、演奏や子どもへの音楽表現遊びに役立てる。		
到達目標	自分の力で読譜ができる。 コードネームによる簡易伴奏付けができる。 保育現場での楽器活動の基礎指導ができる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目		
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ・音楽表現Ⅵ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	前田　奈緒	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス
2	保育者に必要な音楽の基礎知識	音楽と音、楽譜の仕組み、音名
3	保育者に必要な音楽の基礎知識	小節、楽曲の形式
4	保育者に必要な音楽の基礎知識	音符と休符
5	保育者に必要な音楽の基礎知識	拍子とリズム①
6	保育者に必要な音楽の基礎知識	拍子とリズム②
7	保育者に必要な音楽の基礎知識	奏法を表す記号と音楽表現を表す楽語
8	保育者に必要な音楽の基礎知識	音程①

9	保育者に必要な音楽の基礎知識	音程②
10	保育者に必要な音楽の基礎知識	音階と調性①
11	保育者に必要な音楽の基礎知識	音階と調性②
12	保育者に必要な音楽の基礎知識	音階と調性③
13	保育者に必要な音楽の基礎知識	和音とコードネーム①
14	保育者に必要な音楽の基礎知識	和音とコードネーム②
15	保育者に必要な音楽の基礎知識	和音とコードネーム③
16	前期復習	保育者に必要な音楽の基礎知識の復習
17	幼児の音楽的な表現 わらべうた	わらべうた遊びの実践・わらべうたの特徴の理解
18	幼児の音楽表現活動〜幼児の歌唱活動	初めてのうたの歌唱活動の支援
19	幼児の音楽表現活動〜リトミック	リトミックの教育目的・活動方法・遊び方の留意点 リズムやフレーズを用いたリトミックの実践とその理解
20	幼児の音楽表現活動〜リトミック②	拍子を用いたリトミックの実践とその理解
21	幼児の音楽表現活動〜オルフの音楽教育	日常の音を聴く遊び・ボディパーカッション
22	音楽遊びの指導計画の立案	音楽遊びの指導計画の概要と作成方法
23	音楽遊びの指導計画立案の理解と実践①	低年齢児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践①楽器活動〜卵のマラカスを用いた「たなばたさま」遊び
24	音楽遊びの指導計画立案の理解と実践② 遊びの環境	4，5歳児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践②楽器活動〜言葉のリズムを用いた「とけいのうた」の合奏　音楽遊びの環境
25	まとめ	各回の内容振り返り、理解度確認
26	簡易伴奏法	ルートによる伴奏付け
27	簡易伴奏法	コードによる伴奏付け
28	簡易伴奏法	コードによる伴奏付け
29	後期まとめ	後期内容のまとめと振り返り
30	総まとめ	1年間の総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	こどものうたⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	こどものうたⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	1	30
使用教材	こどものうた200 続こどものうた200		出版社	チャイルド本社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育現場で必要な基礎的な歌唱技術、ソルフェージュ力を実践的に学ぶ。
到達目標	保育現場でよく歌われている季節の歌、園生活の歌をそれぞれ数曲はいつでも歌うことができる。 おおむねイ音～二点ホ音の音符を音名の書き込みなしに読むこと・正しい音で歌うことができる。 基礎的なリズムパターンにおいて、正しいリズムで歌うことができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士
関連科目	こどものうたⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	早瀬　恭子
実務経験	○
実務内容	音楽教室にて勤務(約３年)、中学校音楽常勤講師（約２０年）、学童保育所指導員として勤務(約１年)、テアトルアカデミーにて指導(２年)、ヴォーカルスクール指導(４年)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、評価について
2	園生活の歌・うたあそび	園生活の歌・うたあそび　歌唱練習
3	春の歌	春の歌　歌唱練習
4	春の歌	春の歌　歌唱練習
5	春の歌	春の歌　歌唱練習
6	春の歌	春の歌　歌唱練習
7	春の歌	春の歌　歌唱練習
8	成果発表①	歌唱発表
9	夏の歌	夏の歌　歌唱練習

10	夏の歌	夏の歌　歌唱練習
11	夏の歌	夏の歌　歌唱練習
12	夏の歌	夏の歌　歌唱練習
13	夏の歌	夏の歌　歌唱練習
14	夏の歌	夏の歌　歌唱練習
15	成果発表②	歌唱発表
16	園生活の歌・うたあそび	園生活の歌・うたあそび　歌唱練習
17	秋の歌	秋の歌　歌唱練習
18	秋の歌	秋の歌　歌唱練習
19	秋の歌	秋の歌　歌唱練習
20	秋の歌	秋の歌　歌唱練習
21	秋の歌	秋の歌　歌唱練習
22	秋の歌	秋の歌　歌唱練習
23	成果発表③	歌唱発表
24	冬の歌	冬の歌　歌唱練習
25	冬の歌	冬の歌　歌唱練習
26	冬の歌	冬の歌　歌唱練習
27	冬の歌	冬の歌　歌唱練習
28	冬の歌	冬の歌　歌唱練習
29	冬の歌	冬の歌　歌唱練習
30	成果発表④	歌唱発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	実習指導		
必修選択	選択	（学則表記）	実習指導		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	保育科	2	60
使用教材	各校裁量		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	実習の目的を知り、基礎的な知識を身に付ける。 実習に必要な準備をし、実践力を身に付ける。
到達目標	実習の意義を理解し、日誌、指導案の書き方を習得する。 手遊びや保育グッズを使った設定保育を自信をもって実践する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	
関連科目	保育実習指導Ⅰ（保育所）・保育実習指導Ⅰ（施設）
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	眞榮田　俊　他１名
実務経験	○
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務（１４年）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス 幼稚園・保育所・認定こども園について
2	実習の内容意義・目的・心構え	実習の意義、目的、心構え 実習の種類
3	保育グッズ作成	保育グッズの必要性と作り方
4	保育グッズ作成	保育グッズ作成
5	実習日誌の書き方	実習日誌について 書き方と用語の確認
6	実習日誌の書き方	実習日誌演習
7	実習日誌の書き方	実習日誌演習
8	実習日誌演習	０・１歳児の実習日誌演習
9	実習日誌演習	２・３歳児の実習日誌演習

10	実習日誌演習	４・５歳児の実習日誌演習
11	観察実習直前指導	実習態度、日誌・エピソード記録、お礼状等の書き方
12	観察実習振り返り	観察実習で学んだことの振り返り 日誌の書き方、エピソード記録の振り返り、修正
13	指導案とは	指導案を知る
14	指導案作成	指導案演習①
15	指導案作成	指導案演習②
16	保育グッズ作成	保育グッズの活用法と作り方 保育グッズを作成する
17	保育グッズ作成	保育グッズを作成する
18	保育グッズ作成	保育グッズを作成する
19	保育グッズ作成	保育グッズを作成する
20	指導案に沿った実践演習	保育グッズを用いた発表の実践演習をする
21	指導案に沿った実践演習	保育グッズを用いた発表の実践演習をする
22	指導案に沿った実践演習	保育グッズを用いた発表の実践演習をする
23	実践演習の振り返り	実践演習を振り返り、実習に向けたまとめ
24	こどもの関わり方と 日誌・エピソード記録①	様々なこどもの関わり方と記録の方法
25	こどもの関わり方と 日誌・エピソード記録②	様々なこどもの関わり方と記録の方法
26	こどもの関わり方と 日誌・エピソード記録③	様々なこどもの関わり方と記録の方法
27	こどもの関わり方と 日誌・エピソード記録④	様々なこどもの関わり方と記録の方法
28	こどもの関わり方と 日誌・エピソード記録⑤	様々なこどもの関わり方と記録の方法
29	実習直前指導	１年間で学んだことの振り返り 週案・観察実習での学びの再確認
30	１年間のまとめ 実習直前指導	１年間で学んだことの振り返り 実習態度・敬語・持ち物・提出書類の取り扱い・実習期間の生活リズム